

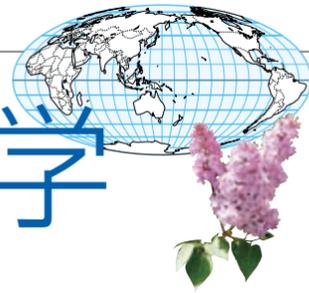
學報

学校法人 北海学園

北海商科大学

アジアの時代に、アジアを学ぶ。

Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol.10

2011.6.15

発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161(代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

研究科長・学部長・センター長挨拶	2面
2010年度卒業式	2面
2011年度入試結果概要	3面
2010年度就職状況について	3面
APQ関係資格取得で就職を有利に	3面
保護者説明会、交換留学生修了式	3面
大学院の開設	4面
留学だより、留学生交流花見会	5面
語学検定とスピーチコンテストの結果	5面
東アジア観光情報研究会	5面
留学生交流会、ゼミ訪問、研究のいま	6面
体育祭速報 [フォトギャラリー]	7面
サークル活動紹介、医務室から [連載]	7面
教員・職員紹介、行事予定	8面
公開講座、歓迎交換留学生	8面

Topics 1

2011年度入学式挙行

平成23(2011)年度入学式が4月3日、札幌パークホテルにおいて、大学院修士課程7名、学部生161名、交換留学生19名、合わせて187名の新生を迎え、多くのご来賓、ご家族のみなさん、教職員の列席のもとに挙行されました。

「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の教育目標のもと、本年度から大学院も開設されました。入学式場には歴史ある北海学園の新たな仲間として、その一歩を踏み出した晴れやかな空気に満ちていました。

森本正夫学長式辞

式辞に先立ち、この度の東日本大震災により被災された多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。被害の状況が次第に明らかになるにつれ、私達は自然に対する畏敬の念を忘れてはいけなと改めて痛感いたします。このことを忘れず、これからの復興に尽力して参ります。

さて、本日は、北海学園の理事・監事・役員の方々、また設置校の北海学園大学の学長木村和範先生、北海高等学校の校長北明邦雄先生、北海学園札幌高等学校の校長大久保正先生をはじめ、多数のご来賓の皆様のご臨席をいただき、ここに北海商科大学の新生161名と交流校である中国山東大学威海分校と中国煙台大学からそれぞれ6名、計12名、韓国大田大学から7名の留学生、また、今年度より、東アジアの時代を見据え、流通、観光、経営分野の高度な専門的知識・能力を備えた人材育成を目指し開設しました大学院商学研究科7名、合わせて187名の入学式を、保護者、関係者の皆様とともに挙行できますことは、私ども教職員一同が深く喜びとするところであります。

東京以北で最大の都市、人口190万人を擁する札幌市の豊平区で、地下鉄に直結した恵まれた都市環境のもとに開学して六年目を迎えました。この北海商科大学の新たな歴史は、きょう入学された皆さんが、築き上げて行くものです。教職員一同も、優れた成績で入学した皆さんと独自の校風を作っていくことを楽しみにしております。

平成23年度入学式、北海商科大学の新たな歴史に187名の新生を迎える



式辞を述べる森本正夫学長

北海商科大学は新しい大学です。母体である北海学園の歴史は古く、創立は126年前の明治18年にさかのぼります。現在、北海学園は、北海学園大学と大学院のほか、北海高校と北海学園札幌高校を設置しており、1万2千名を有する学生生徒が日夜勉学に励み、また課外活動に精を出しています。学園全体の卒業生は15万名ほどにもなり、道内はもとより、全国各地、さらに海外でも活躍しております。きょう皆さんは、その北海学園の仲間として迎えられたわけです。

新生の皆さんは、新しいアジアの時代のグローバル化を見据えた言語・文化・社会及び国際関係を中心に学び幅広い問題意識から商業活動に欠かせ

ない基本となる知識を広く深く学び、経済学部や経営学部とはまた違った、実践教育にも力を入れた教育を展開しております。特に最初は、皆さんの将来に役に立つ外国語の教育と異文化の理解に力を入れています。

本学の海外における教育研修交流姉妹大学は、北海道の姉妹州であるカナダ・アルバータ州の南部にあり、三十年の交流実績があるレスブリッジ大学、中国では沿岸部の風光明媚な山東半島にある、山東大学威海分校と煙台大学、韓国では札幌市と姉妹都市になりました昔の百濟王国の地にある大田市の大田大学校がすでに皆さんを受け入れる準備を整えています。皆さんは、アジアの時代にアジアの若者たちと共に学ぶことになるわけです。

さて、大学とは広く知識を学び、真理を探究するところです。基礎的な教育もあれば専門的な研究もありますが、総じて、教育研究の機関として、人類の学問的文化的遺産を、次の世代に伝達し継承するという、公共性の高い社会的使命を負っています。そうした大学で学ぶことは人格形成にもつながり

ます。そのため本学では多彩なカリキュラムを用意しております。特に、少人数教育を重視し、研究と教育を統合する人材育成システムを目指しています。また、語学、情報管理、観光、貿易通商、社会行政などの分野で高度な技能と資格の取得を目指すなど、学問を通して実践的教育を実現して行くカリキュラムを特徴としております。

私は常々、大学教育の真髄は、学問を通じての、教師と学生との人間的一体化であると思っております。ゼミナールを通じての、教授と学生との学問に関する議論を通じて、皆さんの人格形成がなされるものと期待しております。歴史ある北海学園の、恵まれた環境の中で、学生生活を大切にし、課外活動や社会活動にも積極的に取り組んでいただきたいと願っております。

新生の皆さんにおかれましては、きょうの入学式の喜びを忘れず、これからの学生生活に反映させてください。明日への飛躍を確かなものとするよう、皆さんが健康に留意し、四年間精一杯努力することを期待して学長の式辞といたします。



新生代表・栃本美穂さんによる宣誓



研究科長・学部長・センター長挨拶——新年度にあたって

新年度にあたり、大学院研究科長・学部長・センター長挨拶と各センターの機能、役割について紹介します。

本学は商学部の単科大学として、専門的に商学を基軸にする教育・研究を深めるとともに、世界の動きを察知して、そうした動きに対応しうる機動力のある新しい大学運営を目指して設置されました。教育目標は「アジアの時代にアジアを学ぶ」ことで、世界やアジアで活躍する人材を育てていくことにあります。今年度より新たに大学院商学研究科が開設され、さらに充実した教育・研究体制が求められています。このような目標を達成するために、新しい大学運営システムとして学長以下大学院研究科長、商学部長、および6つのセンター（学術発展センター、入試・広報センター、教務センター、キャリア支援センター、学生支援センター、国際交流センター）を設置、各センター長のもとに国際化に対応する大学づくりが進められています。

アジアを見据えた高度な教育研究体制を確立

大学院研究科長
西川 博史 教授



本年4月から大学院商学研究科ビジネス専攻修士課程を開設し、7名が入学しました。本学はこれまで語学を身につけ、異文化コミュニケーション能力を高め、グローバルに活躍する人材を輩出してきました。さらに、次の飛躍を目指し、大学院を設置して高度な専門教育体制を整備しました。グローバル化が進む北海道の発展のためにはアジアとの連携が不可欠です。アジア地域の経済・社会を分析し、北海道の観光産業とビジネスを中心とした地域戦略を構想できる人材を育成する本研究科の使命は極めて大きいものがあります。地域社会からの期待に応えられる人材育成に向け、専門的な教育研究体制を一層充実させていきます。

「認証評価」受理！更なる発展を目指す

商学部長
教務センター長
阿部 秀明 教授



本学は、グローバル化社会の動向に対応した教育研究を実践するため「アジアの時代にアジアを学ぶ」を大学の使命に掲げ教育研究を展開しています。その証として実践的なコミュニケーション能力の向上を目指しアジアへの興味と関心が喚起されるよう多彩な専門科目を用意しています。皆さんは自分の知的好奇心に沿ってこれらの教科を学び、自らの知識を豊かにできます。3月には、こうした教育内容に関して、日本高等教育評価機構より大学機関別認証評価「認定証」を受理しました。今後も皆さんの好奇心を刺激し自主性や人間性を高める質の高い教育サービスを展開してまいります。

特色ある学術機能の整備に向けて

学術発展センター長
伊藤 昭男 教授



「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の基本理念に基づき、本学の学術機能も特色ある整備に努めています。これまでの国際学術交流、アジア学術文献資料の蓄積、東アジアを基本テーマとした公開講座の開催、さらに本年度開設された東アジアのビジネスに主眼をおく大学院修士課程などは地道ではあるがその整備の道程です。特色ある方向性は不透明さ・不確実性を増す時代こそ必要であり、そうした問題を払拭する可能性を有しています。その意味からも本学の学術機能は、羅針盤を見失しなうことなく、「特色ある学術の場」の形成に向けて着実に整備していくことが重要といえます。

広報と入試の有機的連携を図る

入試・広報センター長
柳川 博 教授



大学の様々な活動や取り組みを高等学校や受験生のみならず、広く社会に伝え、アジアの時代にアジアを学び、グローバルに活躍する人材を幅広く募集する活動と有機的に結びつけていくことが入試・広報センターの業務です。

教員・スタッフが日常的に行っている教育・研究や社会活動などを紹介し、企業や社会で活躍する人材を育て、社会からの評価を積み重ね、本学の取り組みや教学ポリシーに共感してくれる人々を増やしていくことが志願者の増加につながると考えています。入試業務に王道はありません。日々の地道な積み重ねが大切と考え、活動を続けていきます。

就活は自分を売り込むチャンス

キャリア支援センター長
菊地 均 教授



職業に就くための活動をどのようにとらえたらよいのか。就活は自分を売り込むチャンスだと思っていただきたい。就職を志望する学生では、遅くとも3年生の秋ごろから就職活動をスタートし、最低でも半年から1年程度行うのが通常であります。多くの企業では一次試験でSPIなどの基礎的な学力検査を課し、二次試験以降で面接を行うのが一般的ですが、何よりも自己分析が大切な要素になります。

現実には想像以上に厳しく、甘えを許さないのが、学生諸君は就職セミナーや個別指導に積極的に参加し、遠慮なく担当者からアドバイスを受けてください。

きめ細かな学生支援をめざして

学生支援センター長
田辺 隆司 教授



大学生活は、社会に羽ばたく前に自分を磨く貴重な時期です。そのためには目標を定めて毎日を健康的に過ごすことが大切です。学生支援センターの業務の一つは、学生の皆さんが快適なキャンパスライフを送るための、心身の健康管理をサポートすることにあります。今年度は医務室に常駐する看護師の健康相談や臨床心理士によるカウンセリング体制の、一層の充実をめざします。さらに、課外活動や大学祭等の年間行事から奨学金の連絡等まで、大学生活の全般にわたり幅広く皆さんを支援します。何か問題が起これば自分だけでは解決できないとき、一人で閉じこもらずに気軽に相談してみてください。

「国際」という枠を超えて

国際交流センター長
加藤 由紀子 准教授



「アジアの時代にアジアを学ぶ」の教育目標のもと、交流協定校である山東大学威海分校、煙台大学（中国山東省）、大田大学校（韓国）との学生派遣・受け入れ事業も6年目を迎えました。

また、前年度中から本学も札幌市が主催する「札幌圏大学連携ネットワーク会議」のメンバーとなり、当センターが札幌圏の地域との連携や大学間連携の窓口となりました。

今後は、「国」という枠を超えて、また大学の枠を超えて、本学の学生が幅広く交流を広げられるように、連携して支援していきたいと考えております。

Topics 2 2010年度卒業証書・学位記授与式が挙行される

平成22(2010)年度卒業証書・学位記授与式が3月18日、札幌パークホテルにおいて挙行されました。

式に先立ち、3月11日東北地方を中心として発生した東日本大震災の被災者の方々に対して哀悼の意を表し、黙祷を捧げました。

その後、森本正夫学長の式辞、卒業証書・学位記の授与と続き、在学生を代表して3年生の鬼丸洗一君の祝辞、卒業生を代表して品木優美さんが答辞を述べた後、大学教職員に対しての謝辞と今後への抱負を述べました。

今年度新たに社会に巣立つ卒業生148名（商学科110名、観光産業学科38名）は平成19年度、新生「北海商科大学」の2期生として入学しました。昨年卒業の1期生の後輩としてさまざまに活動の喜びや苦勞を分かち合い、また後に続く後輩たちには良き先輩として、勉学、課外活動、就職活動とおおいに北海商科大学の2期生として活躍しました。

開学間もないキャンパスでさまざま

な困難な条件の中でも、絶えず活発に大学生活を送りました。今後の新たな活動の場での活躍を祈ります。

卒業式の後、同所にて「卒業生を送る会」が催されました。東日本大震災直後であることから「祝賀会」を「送る会」と簡素化し、森本学長からはその趣旨が話され、その後の義援金募金活動等被災地へのお見舞いへと繋がりました。参加した卒業生、教職員はこの4年間を思い思いに振り返り、学生生活最後の交流の時間を有意義に過ごしました。



写真上・左：卒業生、写真中：答辞を述べる卒業生代表の品木優美さん、写真右：送る会

Report 1 2011年度入試結果概要

全国的に進む少子化にともなう受験人口の減少は北海道も例外ではありません。道内の殆どの大学が志願者を減らし、定員確保も難しい大学が出現しています。そのような状況にあって、本学では一般入試、センター試験利用入試、推薦入試等を合わせた志願者が504名となり、入学定員に対する倍率は3.36倍でした。その結果、学習意欲の高い学生の入学を許可することが出来たと考えています。

一般入試では前年度の手続率（合格者のうち入学手続を行った者の割合）約60%に対し、今年度は例年並みの46%となり、入学者は前年の196名から161名に減少しました。昨年度の手続率は異例に高い数字であり、今年度は入学定員に対する適正な入学者となりました。

センター試験利用入試では、今年度から3教科3科目選択に制度を変更しました。一部の受験生に敬遠されたことは否めませんが、「地歴・公民」から2科目選択が可能となり、社会科学の基礎力のある学生を募ることが出来たと考えています。

2006年度から「アジアの時代にアジアを学ぶ」をポリシーに掲げ、実学教育と国際化時代に即応した人材育成に努めてきた本学の姿勢が評価され、指定校推薦入試では年々志願者を増やし、今年度は過去最高となる49名の志願者がありました。昨年度までの学科別募集から学部一括募集に変更したことも、推薦入試志願者増に結びつき

ました。指定校推薦により、本学の教学ポリシーに共感し、海外留学制度を活用してグローバルに活躍することを志向したり、商学の実務レベルを向上させたり、観光産業分野で活躍するためのスキルを高めたいと考える志願者が増加していることは、本学の教育効果を一層高めるために重要なことと考えています。

新入生に対して実施したアンケート調査によると、本学への入学を決めた要点の第1位は「アジアについて学べる」こと、教育内容に期待することの第1位は「外国語の授業」でした。入学時に選択する外国語は中国語と韓国語が78名で過去最高となり、半数の学生がアジアに関して強い興味と関心を持っていることが窺えます。

次年度入試では、本学への志向が強い受験生を、指定校の枠を超えて広く募集するため、公募推薦入試を導入します。新しい制度によって、アジアの時代にアジアを学び、グローバルに活躍する人材が、より多く育つことを目標に次年度の入試を実施していきます。

(柳川)



2011年度本学入学試験会場

Report 2 APQ関係資格取得で就職を有利に

既に前号でも紹介したように、本学では、各学科の専門科目を基礎として一層のキャリアアップを図るとともに、国際化するビジネスに柔軟に対応して行けるようなビジネスパーソンを養成するためのAPQ科目を開講しています。その中で特質すべき成果としては、まず、語学関連では難易度が高いHSK（中国語）、TOPIK（韓国語）の上級合格により、中国・韓国などの協定校への長期留学（およそ1年間）が増えています。2010年度では、中国・韓国の各協定校へそれぞれ3名、計6名、さらに中国の国費留学生として4名が2年程度の留学へと繋がっています。そうした経験が外国語スピーチコンテストの北海道大会での優勝、最優秀賞へと結実し、全国大会はもとより、世界大会へ出場するなど輝かしい成績を取っています（詳細は学報Vol.9を参照）。

また、情報系（情報管理論Ⅰ・Ⅱ）のMOS（Microsoft Office Specialist：世界共通ビジネス資格として人気の高い「マイクロソフト・オフィス・スペシャリスト」）の資格取得については、Word、Excel、PowerPointで何れも合格基準を上回る平均点で一発合格率100%を達成しています（Excel：77名合格、Word：44名合格、PowerPoint：30名合格）。

一方、税務会計能力検定や貿易実務検定の上級合格者も増えています。まず、税務会計能力検定とは、(社)全国経理学校協会が実施する検定試験で、企業の税務会計に必要なとされる税のしく

みや会計処理、租税申告の方法（所得税法・法人税法・消費税法）などの能力を認定する資格（1級～3級）です。将来、経理や会計事務職に就く場合はもちろん有利になるでしょうし、税務のスペシャリストを目指し税理士試験を受験しようと考えている学生諸君にとっては格好の基礎学力の確認になります。他方、貿易実務検定ですが、貿易の自由化は今や世界的な潮流となっており、わが国でも今後ますます多くの貿易実務のエキスパートが求められる状況となっています。特に、総合的な貿易知識やマーケティング、さらに貿易英語の基礎能力を客観的に測る資格として有効です。国際運送や通関手



・左上：MOS認定マーク、左下：税務会計能力検定合格証書、右：通関士試験合格証書

続き、為替、ビジネスレターなど実務に直結する知識も併せて学ぶため、当該検定の知識は、貿易部門以外のビジネスパーソンにも役立つものです。

こうした資格は、企業が求めている最も基本的なスキルといえます。構造不況が続く昨今の企業の現状からみて学生生活の早い段階でAPQ科目を積極的に活用し、ポータブルスキルを増やしていくことが、就職活動を有利にする秘訣といえるでしょう。（阿部）

Topics 3 2010年度交換留学生修了式

平成22（2010）年度の交換留学生修了式が、2月21日に挙行されました。森本正夫学長より、交流協定校である中国山東大学威海校、煙台大学、韓国大田大学校からの受け入れ学生16名ひとりひとりに、修了証書が手渡されました。本学では日本語や日本に関する生活文化などを履修し、ボランティア活動等



写真左：修了証書を手を森本正夫学長と張麗さん、写真上：修了式後の交流会で

にも積極的に参加しました。式終了後、本学からの留学派遣学生報告スピーチや交流会も行われ、1年間にわたる相互の留学派遣プログラムを締めくくる充実した会となりました。

Report 3 2010年度就職状況について

本年度も就職氷河期は継続の見通しといわれています。確かに、平成12年度に1倍未満であった学生一人当たりの求人倍率は、平成21年卒生では2.14倍になりました。そこから、平成23年卒生は1.28倍と急激に求人倍率が下がりました。このような状況の中で、本学は就職活動に大いに健闘し、就職希望者にうち85%の就職率となりました。学生諸君の就職活動の熱意と努力に敬意を表するところでありあります。

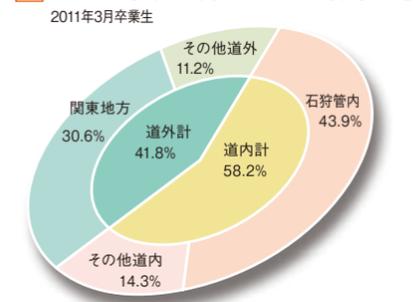
卒業生のうちには、今後さらに研鑽を積み次年度に公務員試験を目指す者や専門性を高めるため大学院などへ進む者もいます。それも人生の一つの選択肢だと思えます。

昨年度の就職者の就職先状況を分析しますと次のようになりました。まず、就職先企業を道内外に主な地理的区分をしてみると図表1のような状況でした。次に就職先の企業を業種別に見ますと、1位が卸売業の流通業で25.6%、2位がサービス業の15.3%となっており、これで4割を超えています。勤務先としては、図表3の通り公務員・教職を筆頭に、卸売業といった商業流通関連、ホテル・旅行エージェンツなどの観光産業関連へと幅広く活躍の場を求めていることが認められます。

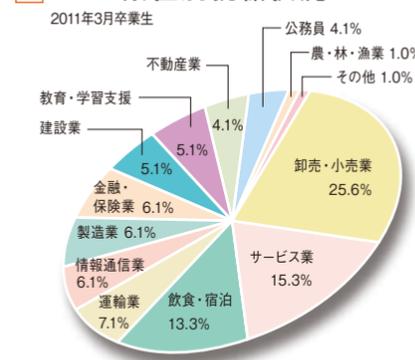
ところで、東日本大震災で、本州企業を中心に採用活動の時期を遅らせる動きが広がり、来春卒業予定の道内大学生らの就職活動が影響を受けています。そのためには、もう一度じっくり自分自身を見つめなおし、自分はどんな適性を持っているか、どんな仕事に

興味があるか、自分にふさわしい生き方を見出すことが大切であります。自分の進路について早くから真剣に考え、積極的に就職活動に打ち込んできた人とそうでなかった人との違いが表れています。厳しい今だからこそ、本年度の学生諸君にはこのチャンスを活かして納得のいく就職活動を行なってもらいたいと思います。（菊地）

図表1 本社所在地別就職状況



図表2 業種別就職状況



図表3 主な就職先

企業名	※敬称略、順不同
北海道警察、美瑛高校、釧路商業高校、北海学園、清田区役所、第一生命保険、明治安田生命保険、北洋銀行、北海道銀行、北央信用組合、十勝信用組合、東海東京証券、大東建宅、JR北海道、ANAグランドサービス、中道リース、ニトリ、ヨドバシカメラ、ムトウ、モロオ、北海道コココーラ、コープさっぽろ、ホクレン肥料、カナモト、竹山、野口観光、札幌ホールディング、サッポロドラッグストア、JALUXエアポート ほか	

Report 4 3年次、2年次保護者説明会の開催

平成23年度3年次、2年次保護者説明会が本学において5月21日、28日にそれぞれ開催されました。

本学では、日頃の教育内容、学生支援の取り組みなどを保護者の方々に知っていただくために、毎年学年単位でおこなっています。両日とも多くの保護者の方が出席されました。

冒頭、阿部秀明商学部長から大学の認証評価、大学院設置、キャリア支援、履修登録についてなど多岐にわたり説明がされました。つづいて、菊地均キャリア支援センター長からは、平成22年度就職状況の報告、23年度の

就職支援体制などが話されました。特に3年次は就職活動が近づくことから、皆さん熱心に耳を傾けられていました。説明会終了後には個別相談も行われました。



3年次保護者説明会

大学院の開設 さらに高度な専門教育研究体制を整備し、充実した大学・大学院教育を目指して

◆21世紀のアジアの時代を見据えた大学院

本年4月1日、北海商科大学は大学院商学研究科ビジネス専攻修士課程（入学定員5名）を開設し、7名が入学しました。横山君と郎さん（インタビューを参照ください）、そして中国・山東大学威海分校から3名、中国・煙台大学2名の留学生が研究生活を始めています。

本学は札幌への移転後、「アジアの時代にアジアを学ぶ」という教育目標を掲げ、「アジアの中の日本」を強く自覚しながら、アジアで共生していくための新しい構想力と実践力を身に付け、グローバルに活躍する人材を育成してきました。入学後すぐに語学力を養い、半年間の中国や韓国などへの留学研修を行い、帰国後も異文化コミュニケーション能力を高め、ビジネスの専門知識やスキルを高める教育プログラムを実施してきました。さらに次の飛躍を目指し、大学院を設置して高度な専門教育体制を整備し、学際的かつ

実践的な総合能力を有する人材を育成する準備に取りかかりました。

この度開設された大学院商学研究科ビジネス専攻修士課程は「北東アジアコミュニケーション分野」、「商学関連分野」、「観光産業関連分野」にそって科目を配置するカリキュラムを編成し、グローバル化が進むアジア地域に向けた新たな経営戦略を企画できる人材、観光及びコマースに関するプロフェッショナルな能力を身に付けた人材、そしてコマース・ビジネス・観光に関する実践化を可能とする研究者などを養成し、道内の産業界、行政、教育界の期待に応えてまいります。



●2011北海商科大学大学院要覧

◆大学院開設に伴う記念行事を開催

北海商科大学大学院商学研究科ビジネス専攻の開設に伴い、6月15日には大学院開設記念式・交流協定調印式、そして6月16日には大学院開設記念講演が行われました。大学院開設記念式・交流協定調印式には中国社会科学院学術委員谷源洋先生、韓国・大田大学校総長林用哲先生、中国・山東大学威海分校研究生處處長張文璽先生、中国・煙台大学国際交流与合作處處長游杰先生、中国・黒竜江大学校長助理・外事處處長張曉光先生等、海外の大学・研究機関から14名が出席され、北海学園国際会議場で午前10時から挙

行されました。翌16日には北海学園特任教授田村正紀先生（神戸大学名誉教授）をお招きし、「これからの大学院のあり方について」をテーマとした記念講演が北海学園国際会議場で午前10時から行われました。



写真上：大学院開設式、写真左：交流推進協定調印式（左上から時計回りに、韓国大田大学校、中国黒竜江大学、山東大学威海分校、煙台大学）、写真下：田村正紀先生による記念講演

INTERVIEW 商学研究科一期生に聞く

大学院に進学したのは、広く会計学、特に法人税を学びたいと考えたからです。大学1年時に中国に語学留学し、帰国後、特に将来のことを考え勉強をするようになりました。大学での卒論は「消費税法」で、学部時代も税法は学びましたが、まだまだ実社会で生かすには未熟です。ゆくゆくは税理士をめざしていますので、法人税法、税効果会計など会計についての



商学研究科1年
横山 直哉さん

高度な専門性、総合性を習得し、研究を深めていきたいと思っています。

本研究科には国税専門官を経験し、税理士免許を持つ中島教授がおられるので、それが本研究科に進学を決めた

第一の理由です。また、私の指導教授であり、企業の側からの必要な目線としての経営分析、管理会計に熟知した橋元教授がおられるので研究環境には恵まれています。北海商科大学には4年間通い、落ちついて勉強できる大学でした。研究科に進学した今もその環境は変わりません。教わるということもありますが、まず自らが研究に費やす時間が大半です。講義のない日も、ほとんど毎日研究室に通っています。研究室は個室のような雰囲気もあり落ち着けます。発表・レポート作成と、学部とは違い発表が多いですが、充実した毎日を送っています。

商学研究科ビジネス専攻ということで、自分の研究テーマにぴったりでした。地理、気候、開拓精神など様々な面で北海道と似ている内モンゴルへ、日本の素晴らしい技術を伝えたい。その為



商学研究科1年
郎 雅瓊（ウヤチュウ）さん

中国の内モンゴルから2000年来日、2005年北海学園大学経済学部経営学科を卒業しました。大学卒業といっても経済学の入り口に触れただけの気がして悔しい気持ちでした。大学卒業後、通訳や翻訳の仕事をしていましたが、さらに大学院で経済を学ぶ機会を探していました。日本と中国を行き来する中で中国の経済的変化を実感、北海道と内モンゴルとの交流に関わりた

いと思うようになりました。そんな折に北海商科大学に大学院が開設されることを知り、ホームページを見た次の日には早速事務室を訪ねました。

本研究科は東アジアを視界においた

には、物流や貿易の手順、政府の考え方などグローバル化の世界に必要な専門知識を身につけなければなりません。大好きな北海道。北海道に住み続けたいと思っています。その北海道の中小企業などが、実際的に内モンゴルに市場参入できるような研究を深めたいと思います。そのためにも、本研究科はいつでも先生方を訪ねられる状況にあるので、とても頼もしく感じています。

今春開設した本学大学院商学研究科の専攻名は、ビジネス専攻である。本来構想していた名称はビジネスコミュニケーション専攻であったが、文科省の認可を得られなかった。理由はコミュニケーション科目が設置科目にないということであった。申請側に見れば、商学そのものがコミュニケーション科目であると考えていたわけだからわざわざコミュニケーションの名を付した科目を設置する必要など感じていなかったたのである。

ビジネスコミュニケーションという表記によって、現在関与（busy）している事柄、つまりビジネス（business）という行為が他人との交渉（trade取引中）であるということの意味を重視したのであるが、すでにこうした意味合いは商学ということから縁遠いものになってしまっている。「商」を英語表記する「commerce」である。共に（com）商品（merce）を扱うことを意味するが、原義は交換とか意見交換による交渉を意味する語である。漢字表記での「商」の原義は、「从外知内也（外よりして内を知るなり）」（『説文解字』）である。これは、たんに外から内のことを「押しはかる」（商る）ことを意味するので

商学を修めるということ

北海商科大学大学院研究科長 西川 博史

を主にすることが業の中心におかれていったことを意味する。このように漢字文化圏においても人々が交渉し、相互に意を問うことが「商」の原義とされていたのである。商学がいつ頃から商売についての学問になっていったのか詳細は分らない。しかし、商学を修めるといことは、本来の意味に戻って考えれば、人と人とのコミュニケーション、他人との意思疎通に必要なさまざまな事柄を究めることにある。現在、グローバル社会にあつて、私たちは「アジアの時代の到来」を実感している。国際化は「Inter-Nation」として国家間の交流を意味するが、Globalizationは既存のNation概念から解放されて新たな交流関係を創出することを意味する。ここで重要なことは、人々が相互の価値観や利害を尊重し、相互理解に基づく共通の価値観を共有することである。「アジアを学ぶこと」の意義もこの原点から離れてはありえない。



大学院研究科の講義

留学だより 現在、長期留学中の学生から便りが届きました。

●平尾 美樹 (観光産業学科4年)

皆さんこんにちは。私は観光産業学科4年の平尾美樹です。今年の3月8日から一年間、韓国大田大学に留学しています。韓国は5月に入ってから毎日蒸し暑く、早くも夏が来たなという感じです。来てすぐに全留学生の歓迎会や日本語学科のMTと呼ばれる親睦合宿、花見などがあり、日本人同士はもちろん、韓国人、また中国やタイ、カンボジアなど色々な国の人と仲良くなりました。最近はその良い韓国人の先輩や後輩と遊びに行ったり、月に一度、国際交流の行事で地方に小旅行に行ったりしています。授業では必修の韓国語で発表する機会が多く、準備に苦勞しています。それ以外は主に日本語学科の授業を履修して日韓の文化比較などを学んでいます。中間試験も終わり、留学生活も2カ月が過ぎました。残りの留学生活に全力で取り組んでいきます。



韓国人の友人等と (前列左から2人目が平尾さん)

●小西 貴洋 (観光産業学科4年)

現在、私はハルビン市にある黒龍江大学に留学中です。

私は去年の8月からここハルビンにきました。ハルビンの人々の中国語の発音は本当に綺麗なもので、ここにいて、



様々な国の留学生と (右端が小西君)

自分の中国語の発音がすごく気になるのです。なので、私は毎日、中国人の友達と共に発音・声調を念入りに勉強しなおしています。

また、ここには私の他に中国語を共に勉強する仲間がいます。ロシア、韓国、アメリカ、スペイン、アフリカ…。国籍はバラバラなのですが、皆中国語という一つの共通語で交流します。彼らとの付き合いは、私の人生に大きな影響を与えました。日本人が苦手とする、自分の考えを相手にストレートに伝えることなども学びました。時には衝突することもあります。しかし、共に良きライバルとしてこれからも日々精進していきたいと思っています。

●中井 龍 (観光産業学科4年)

私は、現在中国に留学中です。(北京語言大学1年間、山東大学8か月)2年半の留学予定ですが、長いようで短いなというのが今の心境です。山東大学には多種の国家、多種の民族が留学していますが、様々な学生を見るにつけ、必ずしも年齢と成長の度合いは比例しないと最近強く思うようになりました。自分より年下であっても、自国の未来を深く考えている学生もいれば、逆に年上であっても自分のことだけしか考えない学生もいます。自分は、この地で学業以外の活動をする事によって得た教訓は、



山東大学の友人達と (前列左から2人目が中井君)

〇〇人という類型化は正しくなく、国民性の違いはあっても、民族の優劣はなく、どの国にも良い人もいれば、そうでない人もいるということです。残り、1年余り。学業以外のこともできるだけ多くのことを吸収したいと思っています。

*****来日留学生——北海道から*****

本学に一年間交換留学生として来日している中国・韓国の留学生達と、恒例の花見交流会が5月14日栗山町の桜の名所栗山公園で行われました。バーベキューに舌鼓をうち、楽しい一日を過ごしました。また、5月23日には本学の隣に位置する留学生交流センターで開かれた、上田文雄札幌市長と札幌市内の大学で学ぶ外国人留学生との「ランチミーティング」に参加しました。すべて道産の食材で調理された昼食をともにしながら、それぞれの出身国のことを上田市長に披露するなど、久しぶりの故郷談義に沸きました。



写真左：栗山町での花見交流会、写真上：留学生交流センターでのランチミーティング

Report 5 語学検定とスピーチコンテストの結果報告

●「漢語橋」スピーチコンテスト北海道予選大会で3年連続優勝

5月21日、第10回「漢語橋」世界大学生中国語スピーチコンテスト北日本予選大会が札幌孔子学院で行われた。本学の4年生大串多恵子さんが見事に優勝し、7月に北日本代表として中国で行われる本選に出場する。本学の学生は2009年から三年間連続、日本の代表として出場することになった。今年度出場した学生は、中国に長期留学した経験があり、語学力だけでなく、中国に関する知識や文化的資質の面においても、これまでにない高レベルを示した。本学の4年生大串多恵子さん(観光産業学科)、杉本有翼君(商学科3年)、竹村航平君(商学科2年)、柴田尚樹君(観光産業学科2年)、向井志緒利さん(商学科2年)が出場し



優勝した大串多恵子さん

た。「漢語橋」世界大学生中国語スピーチコンテストは、中国語を学ぶ世界中の大学生に漢語に関する総合力を披露する場を提供するため、中国政府が2002年より開催しているものである。各国の若者が多数参加し、中国語を通じて中国社会や文化への理解を深め、さらに世界中の若者同士の連携を強め、多文化交流を盛んにしている。(蘇)

●外国語検定に上級合格者増加

去る4月20日、韓国語能力試験が実施されました。この試験は韓国政府が認定する試験で、世界35カ国で一斉に実施されています。日本では韓国教育財団(財)が実施を主管しており、北海道における試験会場は本学の校舎となっています。この試験に本学からも韓国語履修者24人が受験しました。試験は初級(1・2級)・中級(3・4級)・高級(5・6級)に分かれており、今回、本学の受験では1級・3人、2級・10人、3級3人、4級1人、6級2人の合計19人が合格しました。中でも向井志緒利さん(商学科)は2年生での最上級6級合格という大快挙を成し遂げました。ちなみに6級は政治・経済など全般的なテーマにおいて不便なく話せるレベル。向井さんは「嬉しいです。緊張はしなかったけど、一番苦勞したのはやはり『作文』でした。過去問をきちんと解くことが合格には重要だと思います。」と語ってくれました。(水野)



入賞者と主催者の集合写真

Report 6 東アジア観光情報学研究会

『観光情報学会』の下部研究会である「東アジア観光情報学研究会」(主査:伊藤昭男)では、本年度本学にて「第8回観光情報学会全国大会」を開催致しました。

大会では、北海道を中心として全国から21件の口頭発表が熱心に行なわれました。また、記念講演会として徐瑞湖・台北駐日経済文化代表所札幌分所長による「北海道と台湾の交流について」、および特別ワークショップとして「震災後の影響と道内観光産業の振興プラン」が内田純一・北海道大学准教授をコーディネーターとする北大研究グループによって討議されました。終了後は札幌ガーデンパレスにおいて

懇親会が開催され、学会員間の交流と全国大会の労がねぎらわれました。(伊藤)

第8回観光情報学会全国大会

テーマ「地域ツーリズムと東アジア連携」

■会期：平成23(2011)年6月11日(土)

■会場：北海商科大学4階・8階

□主催：観光情報学会

東アジア観光情報学研究会

□共催：北海商科大学

□後援：札幌市、北海道、北海道開発局、北海道経済産業局、北海道新聞社、北海道総合通信局、北海道観光振興機構、北海道運輸局



徐瑞湖台北駐日経済文化代表所札幌分所長の講演には一般市民も聴講



全国から多くの会員が出席



第8回観光情報学会全国大会ポスター



本学の多くの教員が運営に参加

ゼミ訪問

中鉢ゼミでは、観光産業への就職をめざす多くの学生が学んでいます。ゼミのねらいは、身近なテーマを通して、目標を実現するために必要な目的意識を育むことです。

2011年度前期、中鉢ゼミではLCCをテーマに、4年生10名、3年生3名がともに学んでいます。

LCCとは、格安航空会社を意味するローコストキャリア (Low-Cost Carrier) の略称です。機内サービスの簡略化、機体運用の効率化などで低価格で利用できるLCCは、世界の航空事情を変えつつあります。海外に興味をもち始める大学生にとって、身近であり、関心の深いテーマといえます。中鉢ゼミのキーワードは「興味」。昨年度は、やはり身近なテーマである北海道遺産について取り上げました。

「観光に一番大切なのは、おもしろいと感じる心です。学生には「しつかり遊びなさい」「旅行に行きなさい」と繰り返し話しています。おもしろさを実感すれば、それが単にお金の問題ではないと気づくはずですから。モチベーションもつて学び、目的意識を高めてほしいのです」

ゼミの基本はレポートの発表と質疑応答。ときおり中鉢先生が補足説明を



中鉢ゼミのみなさん

Topics 4 国際学生交流会が開催されました

本年4月16日(土)に地下一階自由学習コーナーで、海外交流協定校からの客員教授、学部・大学院への留学生と日本人学生及び本学教職員との交流会が開かれました。本年度は、韓国大田大学から7名、中国煙台大学と山東大学威海分校からは大学院生を含め

計16名を受け入れております。

3月11日に起きた東日本大震災の影響で、全国で海外からの留学生の来日が懸念されておりましたが、交流会にはほとんどの留学生が出席し、1年から4年生までの日本人学生30余名との交流を楽しみました。



中国・韓国からの交換留学生と日本人学生・教職員が交流



◆中鉢 令兒 教授◆ 観光研究ゼミナール

加えます。取材時、とりわけ多くの質問を投げかけていたのは小野祥輔君(観光産業学科3年)です。道内有数の観光地・函館の出身で旅行好き。高校で旅行会社への就職を志し、本学に入学しました。「旅の面白い味はワクワク感」と話す小野君が中鉢ゼミを選んだ理由は、「興味」というキーワードにありました。「いま関心があるのは旅行に不可欠な交通問題。LCCは自分にぴったりのテーマだと思います」

小野君だけでなく、ゼミの大半を占める4年生の多くが観光関連産業への就職を志望しています。「地域はしっかりと教育を受けた観光の専門家を必要としている」と考える中鉢先生は、メールで就職活動についての相談を受けたり、ゼミのカリキュラムに試験対策を取り入れるなど、就職活動をできる限りサポートしています。「企業に

入って先進事例をつくり、観光産業のおもしろさを後輩に伝えてほしい」。中鉢先生の熱心なサポートは、学生に対する期待の表れです。



books 先生のオススメ

- ・「深夜特急」沢木耕太郎(新潮文庫)
- ・「破天荒! サウスウエスト航空 驚愕の経営」ケビン フライバーグ、ジャッキー フライバーグ著/小幡照雄訳(日経BP)
- ・「イカロスの翼」金垣裕介(文芸社)



いま手元に一冊の本がある。タイトルは『大人のためのブランド・カー講座』、2004年に新潮社から出版されている。著者は自動車評論家として著名な徳大寺有恒さん。なぜこんな本を改めて読み返しているかというと、昨今の自動車メーカーをめぐる合併・買収や提携があまりにもめまぐるしくて、それまでクルマの車名や自動車メーカーが持っていた明確なブランド・イメージが、自分の意識のなかで混濁してきたからだ。

かつての英国は自動車大国の一角を占めていたが、1970年代以降になると急速に衰退へ向かった。世界に誇った高級車ロールス・ロイスと、現在では最も普遍的な駆動レイアウトとなったエンジン横置きFF車を世界で最初に商品化したミニは、今ではドイツBMWのブランドに姿を変えた。上品な美しさから名声を博した英国ジャガーと、プレステージSUVと揶揄された同ランドローバーは、米国フォードに買収された後にインドのタタ自動車傘下になり、安全技術で著名なスウェーデンのボルボ・カーズは、米国GMの子会社を経て、中国吉利汽車を所有する浙江吉利控股集团傘下となったというニュースは、まだ記憶に新し

い。このように近頃は自動車メーカーの世界的な合掌衝衡が続いている。振り返ってみると、およそ10年前にも同様な動きが見られた。1980年代後半、利益額・率ともに劣る小型・中型車である乗用車は日本メーカーやドイツのフォルクスワーゲンなど、逆に利益額・率に勝るミニバンやSUVなどの大型車は米国メーカーと、北米市場で棲み分けをやったのけたGMやフォードは、90年代にその北米市場で稼ぎだした莫大な利益を元手にして、今から10年前にも国際的な企業買収を展開した。またこの時期は、自国ドイツ

Report 7

研究の言葉——クルマと自動車の近未来

■村松 祐二 教授

市場中心に高付加価値経営を追求していたドイツ高級乗用車メーカーのダイムラー・ベンツが、量産車やミニバン・SUV分野への参入と北米市場への進出を目的に、米国クライスラーと合併し、ダイムラー・クライスラーが成立した時期とも重なる。

ただし10年前の状況と今回とは、経営環境やリードするメーカーがだいぶ異なっている。この間にGMとクライスラーはともに経営破綻し再出発を図った。米国金融危機に始まった世界的不況や、退職者への手厚い保護から生じる高コスト問題があったとはいえ、世界最大の自動車メーカーであるGMの破綻を10年前に一体誰が予想できたか。今回業界再編の主役は米国メー

カーから日欧メーカーへ移った。再編の視点も「グローバル競争のもとでは年産400万台以上のメーカーにならなければ生き残れない(400万台クラブ説)」といったような単純な規模の経済追求から、環境技術の開発や成長する新興国市場への対応に変化している。具体的にいうと、先進国が注視する環境の側面では、石油資源の高騰や二酸化炭素の排出量規制をうけて、激しい技術開発競争が繰り広げられている。10年前の次世代自動車は、水素と酸素の反応を利用し発電し



・近著:人文社会科学の視座(共著)/共同文化社

ながら走行する燃料電池車だったが、今では充電型の電気自動車に注目が集まっている。これには米国が提唱するスマートグリッド構想が関連している。太陽光や太陽熱などを利用した再生可能なエネルギーを利用するうえで、分散的に発電した電気を蓄える蓄電手段として、電気自動車が注目されているのだ。またこの電気自動車は手軽に製作できることから判るように、自動車産業が形成するピラミッド型の分業構造を将来的には必要としない可能性を秘めていて、議論は尽きない。

新興国を中心とした非先進国市場の側面では、これまでどの先進国メーカーも経験したことのないような低価格の自動車開発が進められている。先

進国の自動車市場が停滞や縮小へ向かうなかで、今後成長が期待できるのは新興国市場において他にはない。ただし新たな市場では先進国で培ったノウハウは簡単には通用しそうにない。2008年にタタ自動車から発売されたナノは、内陸部の最高気温が夏に40℃を超え熱波で死者が出ることもあるインドにおいてもエアコンはオプション、ドアミラーやワイパーは1つ、タイヤホイールを留めるボルトは3本と、割り切り方も群を抜く出来だが、目を引くのは現在の日本円換算で20万円を切る価格だ。インドで急成長しつつある中間所得層の年収に合わせた価格設定となっている。

このようにみえてくると、将来の先進国ではガソリンや軽油で走る内燃機関のクルマは、博物館やクラシック・カーのコレクターの占有となっているかも知れない。すると手に入れるには途上国へ渡って現役のクルマを見つけ出すしかなさそうだが、そこにあるのは現在我々が見ているクルマとは似て非なるものである可能性が高い。もっとも、すでにクルマのブランド・イメージを持ち合わせなくなった方々には、同じクルマに映る訳だが。

こうした経営環境の整理と先進国自動車メーカーの経営戦略について研究を進めている昨今だが、もう一冊役立つものを紹介しよう。同じ著者によるものでタイトルは『一台のクルマがあれば人生を変えるのに十分だ』、2003年に平凡社から出ている。かつて日本ではこう言い切れる時代があったのかと、改めて思う。

速報!! 2011.5.21 北海商科大学体育祭



Topics 5 サークル活動紹介

サークル連合では、所属の23団体が課外活動を行っています。サークル連合代表の稲場祥太君に活動について聞きました。「大学では、講義だけではなく、遊びやバイト等についても沢山のことに挑戦することができます。自由な面が様々にありますが、自由であるがゆえに一層の自己管理も必要となってきます。戸惑いも多いでしょうが、充実した大学生活を送って欲しいと思います。開学6年目の新しい大学ですが、学外にも認められるような活動につなげて行きたいです。サークル相互の結びつきも強めたいと、リーダー研修も行なっています。是非皆さんもサークル活動に参加してみませんか。」

サークル入部希望等サークル活動全般

に関しては次のメールアドレスまで連絡して下さい。

■サークル連合
hsc_saren@yahoo.co.jp

▲サークル連合代表の商学科3年稲場祥太君



写真上から、環境ボランティア部、教育研究会



2011年度 サークル一覧

体育	軟式野球部
体育	女子ラクロス部
体育	バスケットボール部
体育	テニス部
体育	陸上競技部
体育	フットサル部 (REGISTA)
体育	ドッジボールサークル (HI☆TACHI)
体育	パレーボールサークル
文化	アウトドアスポーツビジネス
文化	ダンスサークル (ドルディップ)
文化	中国語サークル (歓々喜々)
文化	ツーリズム研究会
文化	韓国語サークル
文化	軽音楽部
文化	教育研究会
文化	環境ボランティア部
文化	会計研究会
文化	キャリアアップサークル
文化	英語サークル (DOLCE)
文化	吹奏楽部 (北海商科ウィンドオーケストラ)
委員会	体育祭・北海商科祭実行委員会
委員会	サークル連合
委員会	卒業アルバム制作委員会

◀写真左上：中国語サークル、写真左中：軽音楽部、写真左下：ツーリズム研究会、写真右上：韓国語サークル、写真右中：テニス部、写真右下：北海商科祭実行委員会

医務室から～『二十代の健康』③「病院に掛かる・患者の心得」

医務室 二瓶 妙子

昨年一年間の医務室の利用内訳は、1位が「傷の手当て」、2位が「かぜ症状」、3位が「腹痛」です。コンタクトレンズによる「目のトラブル」も意外に多く4位でした。その他、ヤケド、虫刺され、打撲、筋肉痛、健康相談などですが、病院受診が必要と思われる症例は「かぜ症状」に多く見られます。今回は、その病院受診に少し焦点をあててみましょう。

せっかく病院を受診したのに「医師の説明がよく解らない」という声をよく聞きます。

以前と違って、最近は患者さんの質問にきちんと応える医師が増えてきました。説明責任を果たすことが普通になってきて、インフォームドコンセント文化が根付いてきたともいえますね。

医師は専門用語を遣わずできるだけ日常的な言葉遣

いで、噛み砕いて説明するよう努力をしています。

しかし、感じるのは、医師任せで云われるまま、ただ頷くだけの患者さん（家族の方）が実に多いということです。説明を聞く側の患者さん（家族）の「頷き」場面を入院中でもよく見かけます。

医師から説明を受けるときにはメモを取り、わからない箇所を聞くなどの工夫をすることが、受診する側の責任でもありません。医師任せにする「お任せ医療」ではなく、自分が治す「参加型医療」を実践していきましょう！



Info 1 新任教員挨拶・略歴、交換教員紹介

商学科教授

相浦 宣徳

あいうらのぶのり



「流通戦略論」「特殊講義(経営情報)」「ゼミナール」などの講義を担当しています。現在は「効率的で環境に優しい物流システムをいかに構築するか」を中心に研究しています。

世の中にはトロッコ型人間と機関車型人間の2通りのタイプが存在すると思います。前者は坂道に敷かれたレールの上を押し出されて走行するタイプです。しばらくは走行しますが、平坦な道や上り坂で推進力を失うと停止してしまいます。後者は自分で木炭を焚いて自力でレールの上を走行するタイプです。平坦な道や上り坂をどんなに遅くても自走できるタイプです。皆さんには是非とも機関車型人間を目指して頂きたいと思えます。皆さんが自走するための協力は惜しみません。一緒にがんばりましょう。

北海道大学大学院工学研究科博士課程で博士(工学)を取得、神奈川大学、京都大学助手、神奈川工科大学准教授を経て、本年4月より現職。

商学科准教授

竹野 学

たけの まなぶ



「日本経済論」「特殊講義(日本近代史)」「アジア比較文化論」「ゼミナール」など、日本の経済や歴史に関する講義を担当します。専門は日本経済史で、戦前に日本が領有した植民地への人口移動を中心に研究しています。

アジア諸地域に関心を持つ学生の皆さんに、まずは日本の近代化の過程について知ってもらいたいと思います。そして、その過程におけるアジアとの関係の深さを理解した上で、各自に今後の日本=アジア関係を考えてもらえるような講義を行いたいと思います。

1995年北海道大学経済学部卒業、1998年北海道大学大学院経済学研究科修士課程修了、2003年北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得退学、2003~2005年北海道大学大学院経済学研究科助手。その後、札幌医科大学医学部、敬愛大学国際学部、藤女子大学文学部、札幌学院大学経済学部などの非常勤講師を経て、2010年博士(経済学)取得。本年4月より現職。

商学科准教授

李 炯直

イー ヒョンジク



「現代韓国経済論」「日本文化と東アジア」「ゼミナール」を担当しています。

現在のグローバル化は、自由な貿易、資本・人の活発な移動によってもたらされ、今後ますます速いスピードで進んでいくものと思われます。そこで、これからの時代が必要とするグローバルな経済活動に参加し、国際的な環境の中で活躍したいと願っている学生たちに、その夢が実現できるよう全力でサポートして参りたいと思っています。

韓国航空大学航空機械工学科卒業後、3年間韓国空軍対空ミサイル統制将校(中隊長)を経て、2002年カナダサスカチュワン州立大学経済学部へ編入、2006年同大学大学院経済学研究科修士課程修了。同年来日し、2010年北海道大学大学院経済学研究科博士後期課程で博士号(経済学)を取得、北海道大学専門研究員を経て、本年4月より現職。

客員教授

張 丹丹

チョウ タンタン



中国・煙台大学の張丹丹です。北京語言大学で言語学・応用言語学を専攻し、2007年7月に卒業しました。卒業後、現在まで煙台大学で教鞭をとっています。研究の方向は第2言語教育及び漢字学です。総合中国語の講義の経験があり、中国語の口語とHSK(読解)など多くの課目と、煙台大学の国際教育交流学院・対外中国語専門の本科生に現代中国語の専門科目を講義しています。論文「浅議話題」『科技信息』(2009年6月)、「Topic: a literature review」『Asian Social Scienc』(2009年9月)などがあります。

Topics 6 歓迎 2011年度交換留学生

4月、東日本大震災の影響が心配されるなか、今年も無事に交換留学生を迎えることができました。交流協定校である中国の山東大学威海分校、煙台大学、韓国の大田大学校の学生、合わせて18名が、1年間本学で学びます。

■ 煙台大学
外国語学院日本語科3年
閻 玲 (イエンリン) さん

高校のときに、中国で有名な北海道が舞台の映画を観て以来、北海道に来ることが夢でした。日本語をもっと勉強して、日本の販売業で働くことが今の目標です。煙台大学の学生一同、北海道のみなさんの親切さに感動しています。積極的に交流して、思いやりの精神を身につけたいです。仲良くしてくださいね。



煙台大学からの交換留学生と張先生
左から、王楊さん【院生】、閻玲さん、陳曦さん、史沁舒さん、張丹丹先生、王旭さん、牟秀寛さん、鄭於婷さん、叢科さん【院生】

■ 山東大学威海分校
翻訳院日本語科3年
董 琳娜 (ドンリンナ) さん

私たちは北海商科大学に来たいと思っていたので、地震の影響にも負けず、夢をもってやってきました。私の目標は、日本の大学院で企業経営について学ぶこと。だから本学での講義も商学の専門科目がおもしろいです。生活にも慣れ楽しいことばかり。みなさ

んのおかげです。新しい日本の友人と、一生の友だちになりたいと思っています。



山東大学威海分校からの交換留学生
左から、姜佳楽さん、董琳娜さん、吳瀟瀾さん、郭楠さん、金雯さん

■ 大田大学校
日語日文学科4年
崔 勉雄 (チェ ミョンウン) さん

母校で日本人留学生とふれあう機会はありませんでした。でも実際に日本という国に飛び込むと、すべてが新鮮です。自分の目で、体で感じるのが、文化を学ぶ上では一番の近道だと思います。旅行なんかもできるといいですね。僕たちは多くの思い出のために、心にスペースをつくってきました。誘ってくれたら、いくらでも遊びに行きますよ。



大田大学校からの交換留学生
左から、邊(ビョン)ミナさん、パク・ジェウ君【北海学園大学】、ソ・インさん【北海学園大学】、崔(チェ)ミンウン君、金(キム)イェギョムさん、崔(チェ)スルギさん、韓(ハン)ウリさん、孔(コン)ダリュさん、鄭(ジョン)ビョンヨン君

Info 3 前期公開講座開催

「東アジアにおける共通性と異質性」が開催される

毎回多くの市民の参加を得て開催されている北海商科大学公開講座の2011年度前期公開講座が以下の要領で開催されています。

■ 日時：2011年5月21日～7月16日
10:30～12:30

■ 場所：北海商科大学8階会議場

■ 参加対象：一般市民(含む学生)

□ 入場無料

第一回 5月1日(土)	「韓国の中の日本、日本の中の韓国」 井田哲一 「村上春樹：『1Q84』を韓中台はどう読んだか」 水野俊平
第二回 6月4日(土)	「日中間の架け橋ー同時通訳者の体験」 神崎多實子 「物ごとを見るふたつの目ー川柳の中の中国史」 杉本達夫
第三回 6月25日(土)	「福沢諭吉の文明論」 村越雅雄 「ヨーロッパの都市景観、日本の都市風景」 安藤昭
第四回 7月9日(土)	「中国の経済成長とその特異性」 元山啓 「京劇ー梅蘭芳の世界」 李仲明
第五回 7月16日(土)	「サハラ(樺太)の近代史」 竹野学 「農業所得の変遷と北海道農業」 大前博亮

お問い合わせ先
北海学園北東アジア
研究交流センター(HINAS)

TEL.011-841-1108 FAX.011-841-1109
Eメール hinas@hokkai.ac.jp
ホームページ <http://www.hokkai.ac.jp/hinas/>



2011年度前期公開講座ポスター

Info 2 新任職員紹介



主任
教務センター・国際交流
大学院担当

田口 聖志
たぐちさとし

1996年本学商学部商学科卒業。
2011年3月まで北海学園大学経済学部事務室勤務、4月より現職。

皆さんの期待に早く答えられるよう精一杯努力しますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



主任
学生支援・キャリア支援担当

浜田 圭吾
はまだけいご

2003年北海学園大学法学部政治学科卒業。
2011年3月まで北海学園大学入試課勤務、4月より現職。

「商科に入ってよかった!」と感じてもらえるように頑張ります。気軽に声をかけてもらえればと思います。

2011年の行事予定 (6月20日現在)

6/25(土)	第1回オープンキャンパス
7/4(月)~9(日)	前期授業評価アンケート
7/30(日)	講義なし
8/3(日)	振替講義日(月曜日分)、前期講義終了
8/4(日)	夏季休業開始
8/5(日)	成績・採点締切
8/6(日)	成績開示開始、成績・採点異議申し立て受付
8/6(日)・7(日)	第2回オープンキャンパス
8/10(日)	成績・採点異議申し立て受付終了
8/10(日)・11(日)	日本教育カウンセリング学会
8/14(日)~16(日)	全学休業日
8/29(日)	海外語学留学生出発【韓国】(予定)
8/30(日)	海外語学留学生出発【中国】(予定)
9/14(日)	夏季休業終了
9/15(日)	4年次ガイダンス、3年次ガイダンス
9/16(日)	2年次ガイダンス、1年次ガイダンス
9/16(日)・17(日)	4年次履修登録
9/17(日)・20(日)	3年次履修登録
9/20(日)・21(日)	2年次履修登録
9/21(日)・22(日)	1年次履修登録
9/23(日)・24(日)	北海商科祭
9/26(日)	後期講義開始
10/1(日)	第3回オープンキャンパス
10/1(日)・2(日)	北東アジア学会
10/16(日)	英検2011年度第2回検定一次試験
11/15(日)	後期修学指導面談
11/27(日)	特別入学試験
12/16(日)~22(日)	後期授業評価アンケート
12/27(日)	冬季休業開始(1/8日終了)



第1回公開講座講師・井田哲一氏